

3 2. 歯根端切除手術

<到達目標>

- ・ 歯科医師の指示に従える
- ・ ステップごとに報告できる
- ・ 患者にこれから行うことの説明ができる
- ・ 必要器材を用意できる
- ・ 適切なバキューム操作ができる
- ・ 麻酔の補助ができる
- ・ 手術野の確保ができる
- ・ 術後説明ができる
- ・ 後片付けができる

<設定場面>

患者は右上奥歯の違和感を主訴に来院した。エックス線写真などから根尖性歯周炎と診断し、根管治療を行ったが、改善されなかったため、本日歯根端切除手術を行うこととなった。

<治療手順>

1. 患者の誘導と説明

歯科医師：衛生士（助手）に患者の誘導と健康状態の確認、処置内容の説明を指示する。

衛生士（助手）：患者の誘導し、健康状態を確認した上で、処置内容を説明して同意を得る。

2. 根管治療および根管充填 必要器材：根管治療・根管充填セット

歯科医師：衛生士、助手に根管治療と根管充填をする旨を伝え、準備とアシスタントを指示する。

助手：必要器材を準備する。

歯科医師：根管拡大・根管清掃後、根管充填を行う。

衛生士：根管治療・根管充填の補助を行う。

3. 麻酔 必要器材：エックス線フィルム、麻酔セット

歯科医師：衛生士に麻酔をする旨を伝え、補助を指示する。

助手にエックス線フィルムと麻酔セットの用意を指示する。

助手：エックス線フィルムと麻酔セットを準備する。

歯科医師：必要部位に麻酔を行う。

衛生士：麻酔の補助を行う。

4. 歯肉切開と骨膜の剥離翻転 必要器材：滅菌ゴム手袋、滅菌ガーゼ、骨膜剥離子、
粘膜炎剥離子、外科用バキュームチップ、
ルーツエピンセット、替え刃メス#15、
口角鉤、扁平鉤

歯科医師：衛生士、助手に歯肉切開と骨膜の剥離翻転をする旨を伝え、準備とアシスタントを指示する。

助手：必要器材を準備する。

歯科医師：歯肉を切開したのち、骨膜を粘膜炎とともに剥離翻転し、歯槽骨を露出させる。

衛生士：口角鉤で視野を確保する。

剥離された粘膜炎を扁平鉤で牽引し、出血は滅菌ガーゼで押さえ視野を確保する。

5. 骨切除・根端除去 必要器材：骨ノミ（曲）、外科用マレット、鋭匙、骨やすり、
根端切除用切削具

歯科医師：衛生士、助手に骨切除・根端除去を行う旨を伝え、準備とアシスタントを指示する。

助手：必要器材を準備する。

歯科医師：根端付近の歯槽骨を骨ノミで取り除き、根端を露出させる。

鋭縁は骨やすりで整える。

衛生士：指示があればマレットでノミを槌打する。

歯科医師：根端を切削具で除去する。

衛生士：削片をバキュームで吸引する。

歯科医師：根端部の病変部分を鋭匙で摘出する。

衛生士：鋭匙の先端を拭う。

根端部を滅菌ガーゼで圧迫し、視野を確保する。

6. 根端の封鎖 必要器材：根端部窩洞形成用切削具、ガッタパーチャポイント、アクセサリーポイント、封鎖用材料

歯科医師：根端断面の根管にアンダーカットのある窩洞を形成する。

衛生士：切削の補助を行う。

助手：封鎖用材料を用意する。

歯科医師：根端を封鎖する。

7. 創面の洗浄と縫合 必要器材：ハーケンピンセット、ミニウムシリンジ、生理食塩水、縫合セット（持針器、縫合針、縫合糸、縫合用はさみ）

歯科医師：根端部を生理食塩水で洗浄し、骨片・削片を吸引する。

衛生士：バキューム操作をする。

歯科医師：粘膜・骨膜弁をハーケンピンセットであわせて位置を確認し、粘膜があまるようであればメス（歯肉ばさみ）で調整する。

ハーケンピンセットで粘膜を合わせて縫合する。

縫合面を改めて圧迫し、血腫の形成を押さえる。

8. 術後説明と後処理

歯科医師：手術終了を伝える。

衛生士、助手に術後説明と後処理を指示する。

衛生士：処置内容を説明し、投与された薬剤の服用方法や術後の注意を行う。

助手：後片付けをする。

3 2. 歯根端切除手術

必要器材

- ①根管治療・根管充填セット
- ②エックス線フィルム
- ③麻酔セット
- ④滅菌ゴム手袋
- ⑤滅菌ガーゼ
- ⑥骨膜剥離子
- ⑦粘膜剥離子
- ⑧外科用バキュームチップ
- ⑨ルーツエピンセット
- ⑩替え刃メス#15
- ⑪口角鉤
- ⑫扁平鉤
- ⑬骨ノミ(曲)
- ⑭外科用マレット
- ⑮鋭匙
- ⑯骨やすり
- ⑰根端切除用切削具
- ⑱根端部窩洞形成用切削具
- ⑲ガッタパーチャポイント
- ⑳アクセサリーポイント
- ㉑封鎖用材料
- ㉒ハーケンピンセット
- ㉓生理食塩水
- ㉔ミニウムシリンジ
- ㉕縫合セット(持針器、縫合針、縫合糸、縫合用はさみ)